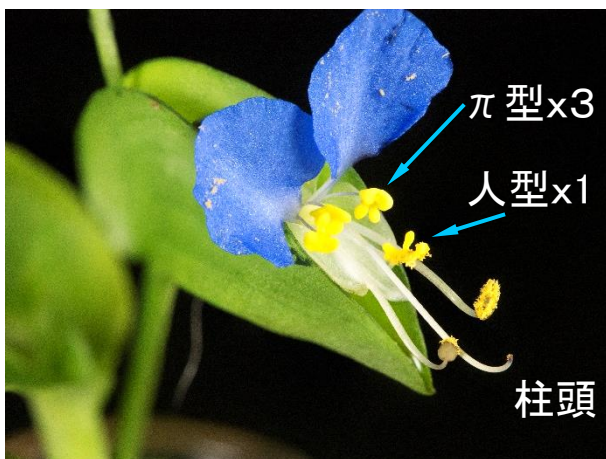
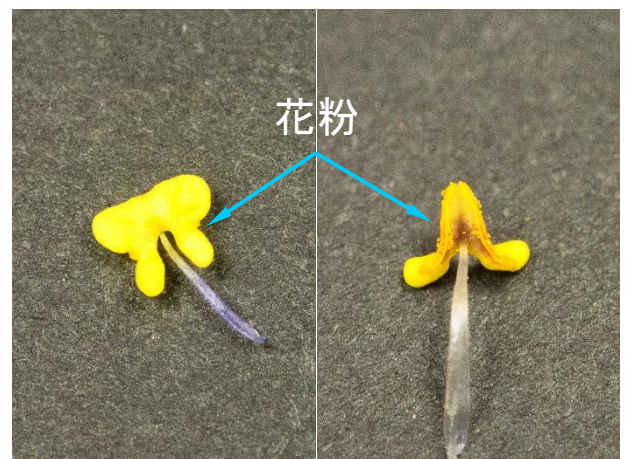


植物多様性センターの「ツユクサ」

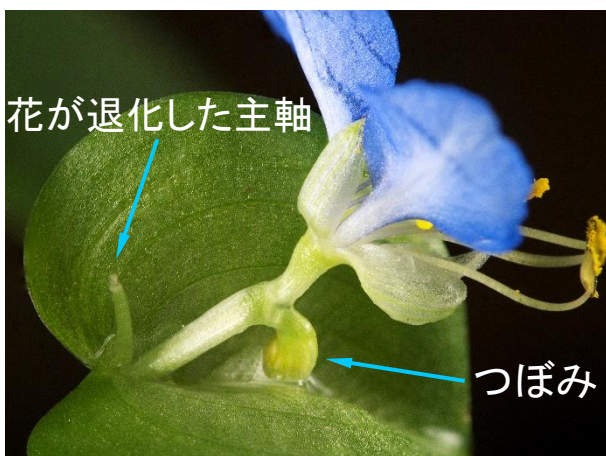
夏の朝早くから鮮やかな青色に咲くツユクサ。日本全国に分布するツユクサ科の一年草です。よく観察すると面白い花の構造です。三枚の花弁の上部二枚は青く大きく、下部の一枚は白く目立ちません。雌蕊は一本で長く突き出ます。雄蕊は六本ですが、うち三本は鮮やかな黄色で短く殆ど花粉をつけません。二本は地味ですが雌蕊と同じ位長く花粉を大量につけ、残りの一本は色も花粉も中間的です。半日咲くと昼過ぎには萎み、雄蕊も雌蕊も巻き取られて花の中心に引き込まれます。虫が媒介しなくても自家受粉できます。



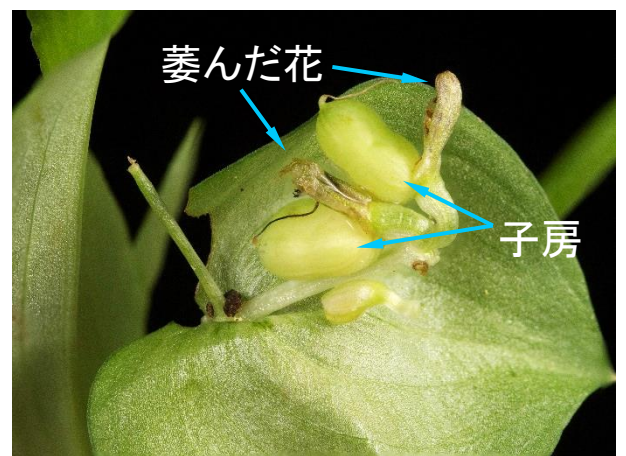
鮮やかな花弁の青に映える
鮮やかな黄色の葯



π型雄蕊：足の付け根に花粉
人形雄蕊：「人」の裏側に花粉



苞葉をめくると見える構造
側枝に花と次に咲くつぼみ



受粉し終わり萎んだ花は
つぼみとは逆向きに曲がる